

新市建設計画素案

序論	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 ~ 4
4 市町村の概況	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5 ~ 7
主要指標の見通し	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8 ~ 9
新市建設の基本方針	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10 ~ 12

序 論

1 時代背景

1990年代、経済のグローバル化¹への突入により、世界は一つの市場となって機能し始めました。さらに近年では経済にとどまらず、教育、環境等の様々な分野においてもグローバル化が進み、日本もこの大きなうねりの中で激しい変革が求められています。

この大競争時代²を勝ち抜いていくためには、21世紀という時代を的確に捉え、戦略的に挑戦していく叡智^{えいち}と、自らの価値観をもって状況を判断し、行動していく力強さが求められています。

また、アジア・アフリカの途上国における「人口爆発」と言われる急激な人口増加は、世界規模で食糧需給の逼迫^{ひっぱく}を招くことが予想され、地域内での食糧自給率の向上など、長期的な施策の展開が必要となっています。

一方、日本国内においては、超高齢化・少子化社会の進行によって、これまでに経験したことのない大幅な人口減少社会を本格的に迎えようとしています。

将来的に、生産年齢人口の減少は社会の活力を著しく低下させ、行政においては社会保障費の増大や税収の減少などにより、投資的な施策を行うことは極めて困難になると予想されています。

このような状況の中、市町村合併による新市建設を都市基盤強化の最後のチャンスとして捉え、現状の諸課題に的確に対処しつつ広い視点に立ち、力強いまちづくりを積極的に進めていかなければなりません。

1 グローバル化・・・世界的規模に広がること。政治・経済・文化など国境を越えて地球規模で拡大すること。

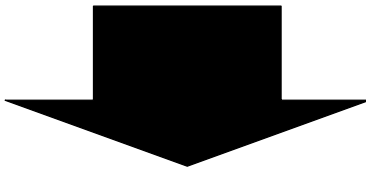
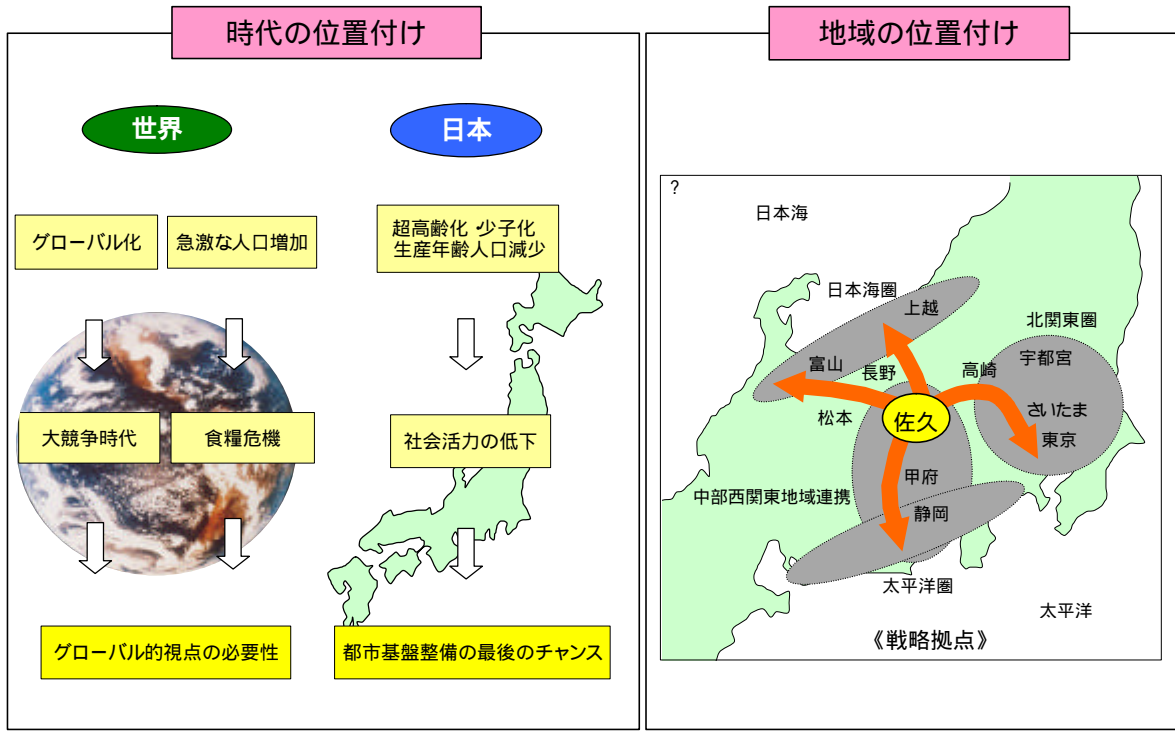
2 大競争時代・・・世界中の企業が国境や業界を越えて地球規模で競争を行う状態。

2 地域背景

全国的な高速交通網の整備や情報網の発達、人や物そして情報の交流を進展させ地域の活性化に大きく寄与していますが、その一方では地域間競争をより激化させています。

このような中、新市では北陸新幹線や上信越自動車道が整備され、さらに中部横断自動車道、松本佐久間地域高規格道路の整備により、日本海圏・北関東圏・太平洋圏を結ぶ交通の要衝^{ようしゅう}として地域連携軸の結節都市となります。

この結節点としての優位性や日本の人口が長期減少傾向の中で、新市が人口増加傾向にあるという優位性を活かすことによって、広域的な交流・戦略拠点としての体制を確立し、これらを基に地域資源を活かし独自性のある産業などを振興することによって、魅力あるまちづくりを進め、地域間競争に対応していかなければなりません。



21世紀への挑戦

大競争時代を生き抜く力強さ

- ・戦略的に21世紀へ挑戦していく
- ・自ら判断して推し進める

可能性の高い地域

- ・新市の人口は、日本の人口が減少する中で増加傾向にある

守りでなく攻めの姿勢で21世紀に船出

3 計画策定の方針

(1) 計画の趣旨

この計画は、佐久市・臼田町・浅科村・望月町の4市町村の合併により誕生する新市を建設していくための基本方針を定めるとともに、これに基づく各種の施策を明らかにし、その実現を図ることにより4市町村の速やかな一体性を確保し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図ろうとするものです。

(2) 計画の構成

この計画は、序論、4市町村の概況、主要指標の見通し、新市建設の基本方針、新市の施策、新市における県事業、公共施設の統合整備及び財政計画で構成します。

(3) 計画の期間

新市建設の基本理念や新市の将来像は、概ね20年後を展望した長期的な視野に立ったものとし、新市の施策、新市における県事業、公共施設の統合整備及び財政計画は、10ヶ年の計画とします。

さらに、このうち平成17年度から平成21年度までの5ヶ年を前期計画とし、平成22年度から平成26年度までの5ヶ年を後期計画とします。

なお、社会情勢や財政状況の変化、あるいは新市における新規事業の実施が求められる場合には、具体的施策、概算事業費及び財政計画等について、適正な時期に見直しを行うものとしします。

4 市町村の概況

1 位置と地勢

4市町村は、長野県の東部にあり、北に浅間山、南に八ヶ岳を望み、蓼科山、双子山、荒船山などに囲まれた佐久盆地のほぼ中央部に位置し、千曲川が南北に貫流し、肥沃な耕地を形成しています。



2 気候

4市町村の気候は、高燥冷涼で寒暖の差が大きい内陸性の気候で、年間の平均気温は10℃と全国平均よりも低く、降水量は年間1,000mm前後と全国的にも少ない地域です。

また日照時間は、年間2,000時間前後と全国平均を大きく上回っており、晴天率の高い地域です。

3 面積

4市町村の面積の合計は、約424km²となります。

佐久市	白田町	浅科村	望月町	合計
192.62 km ²	83.21 km ²	19.52 km ²	128.64 km ²	423.99 km ²

4 人口と世帯数

(1) 人口

近年の国勢調査によると、佐久市・浅科村の人口は増加していますが、臼田町・望月町では減少しています。

また、4市町村の合計で見ると、平成7年に97,813人であったものが、平成12年には100,016人となり、実数で2,203人、率にして2.3%増加しています。

なお、内訳を見ると、4市町村とも少子・高齢化の傾向が見られます。

(単位：人)

		年齢区分	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)
佐久市	人口	総数	59,974	62,003	64,206	66,875
		0～14歳	12,835	11,993	11,245	11,082
		15～64歳	38,317	39,583	40,696	41,816
		65歳以上	8,822	10,422	12,265	13,977
	構成比率	0～14歳	21.4%	19.4%	17.5%	16.6%
		15～64歳	63.9%	63.8%	63.4%	62.5%
65歳以上		14.7%	16.8%	19.1%	20.9%	
臼田町	人口	総数	16,363	16,301	16,178	15,962
		0～14歳	3,385	2,884	2,541	2,326
		15～64歳	10,449	10,373	10,105	9,682
		65歳以上	2,529	3,044	3,532	3,954
	構成比率	0～14歳	20.7%	17.7%	15.7%	14.6%
		15～64歳	63.9%	63.6%	62.5%	60.7%
65歳以上		15.4%	18.7%	21.8%	24.8%	
浅科村	人口	総数	5,978	6,213	6,473	6,504
		0～14歳	1,204	1,196	1,094	1,031
		15～64歳	3,783	3,803	3,860	3,855
		65歳以上	991	1,214	1,519	1,618
	構成比率	0～14歳	20.1%	19.3%	16.9%	15.9%
		15～64歳	63.3%	61.2%	59.6%	59.3%
65歳以上		16.6%	19.5%	23.5%	24.9%	
望月町	人口	総数	11,580	11,108	10,956	10,675
		0～14歳	2,186	1,874	1,717	1,561
		15～64歳	7,223	6,726	6,380	6,090
		65歳以上	2,171	2,508	2,859	3,024
	構成比率	0～14歳	18.9%	16.9%	15.7%	14.6%
		15～64歳	62.4%	60.6%	58.2%	57.0%
65歳以上		18.7%	22.6%	26.1%	28.3%	
(参考) 4市町村人口総数			93,895	95,625	97,813	100,016

(2) 世帯数

近年の国勢調査によると、4市町村とも世帯数は増加しています。

特に佐久市は、昭和60年の17,307世帯から平成12年の23,177世帯へと5,870世帯増加し、増加率は33.9%となっています。

内訳を見ると、4市町村とも単身世帯、夫婦のみ世帯及び1人親世帯が増加しており、世帯の小規模化が進んでいます。

	世帯区分	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)
佐久市	世帯総数	17,307	18,902	21,143	23,177
	単身世帯	2,417	3,251	4,501	5,270
	夫婦のみ世帯	2,747	3,369	4,033	4,762
	夫婦と子の世帯	5,969	6,095	6,485	7,035
	1人親世帯	1,039	1,181	1,300	1,608
	その他世帯	5,135	5,006	4,824	4,502
臼田町	世帯総数	4,582	4,827	5,039	5,243
	単身世帯	645	844	947	1,109
	夫婦のみ世帯	785	912	1,078	1,182
	夫婦と子の世帯	1,571	1,533	1,510	1,507
	1人親世帯	240	276	302	359
	その他世帯	1,341	1,262	1,202	1,086
浅科村	世帯総数	1,635	1,729	1,920	2,032
	単身世帯	126	135	247	268
	夫婦のみ世帯	286	335	388	445
	夫婦と子の世帯	513	544	576	637
	1人親世帯	119	132	142	177
	その他世帯	591	583	567	505
望月町	世帯総数	3,173	3,110	3,206	3,318
	単身世帯	324	327	401	538
	夫婦のみ世帯	553	609	672	697
	夫婦と子の世帯	891	818	795	827
	1人親世帯	182	177	225	249
	その他世帯	1,223	1,179	1,113	1,007
(参考) 4市町村世帯総数		26,697	28,568	31,308	33,770

主要指標の見通し

1 人口の推移

新市の将来人口は下表のようになると推計されます。

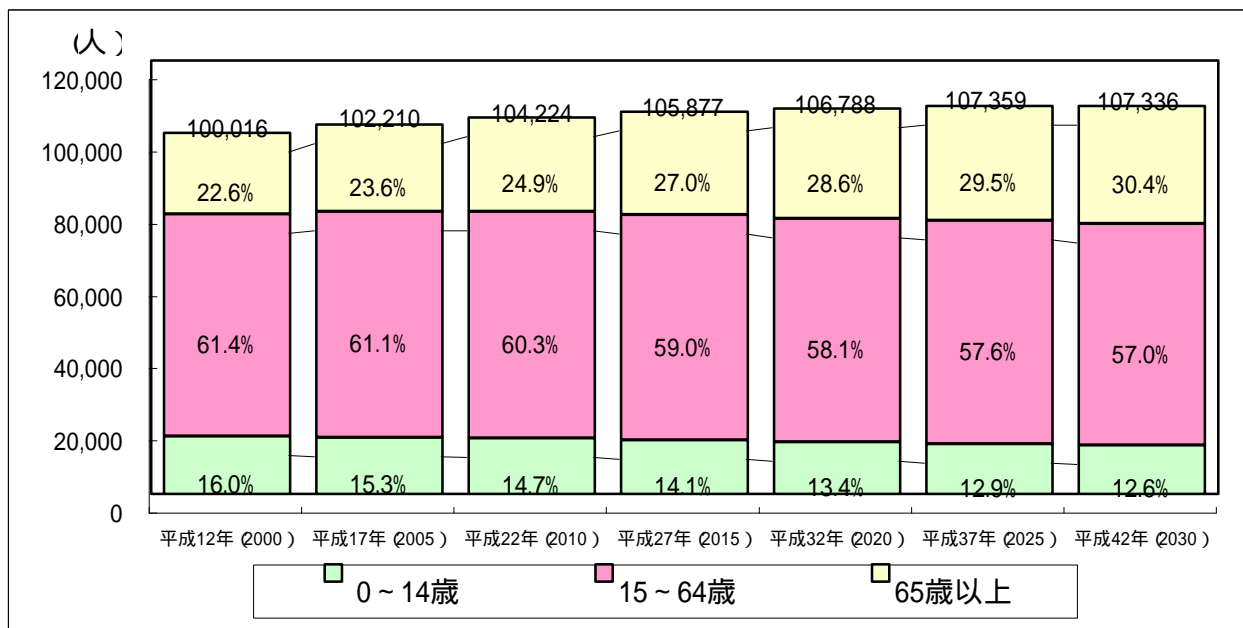
この人口推計の基となった平成12年国勢調査での4市町村合計人口は100,016人で、新市が発足する平成17年には102,210人まで増加するものと見込まれます。その後も人口の増加は続き、平成37年の107,359人をピークに緩やかに減少するものと予測されます。

年齢別の人口推計を見ると、年少人口（0～14歳）は平成12年の16,000人が30年後の平成42年には13,498人まで減少すると見込まれます。一方で、老年人口（65歳以上）は平成12年の22,573人が30年後の平成42年には32,603人まで増加することが見込まれ、少子・高齢化が一層進行するものと思われます。また、少子化の影響により生産年齢人口（15～64歳）についても平成22年の62,881人をピークに緩やかに減少するものと見込まれます。

新市人口推計

(単位:人)

	年齢区分	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)
新市の人口	総数	100,016	102,210	104,224	105,877	106,788	107,359	107,336
	0～14歳	16,000	15,597	15,370	14,907	14,280	13,873	13,498
	15～64歳	61,443	62,491	62,881	62,434	61,993	61,809	61,235
	65歳以上	22,573	24,122	25,973	28,536	30,515	31,677	32,603
構成比率	0～14歳	16.0%	15.3%	14.7%	14.1%	13.4%	12.9%	12.6%
	15～64歳	61.4%	61.1%	60.3%	59.0%	58.1%	57.6%	57.0%
	65歳以上	22.6%	23.6%	24.9%	27.0%	28.6%	29.5%	30.4%



2 世帯数の推移

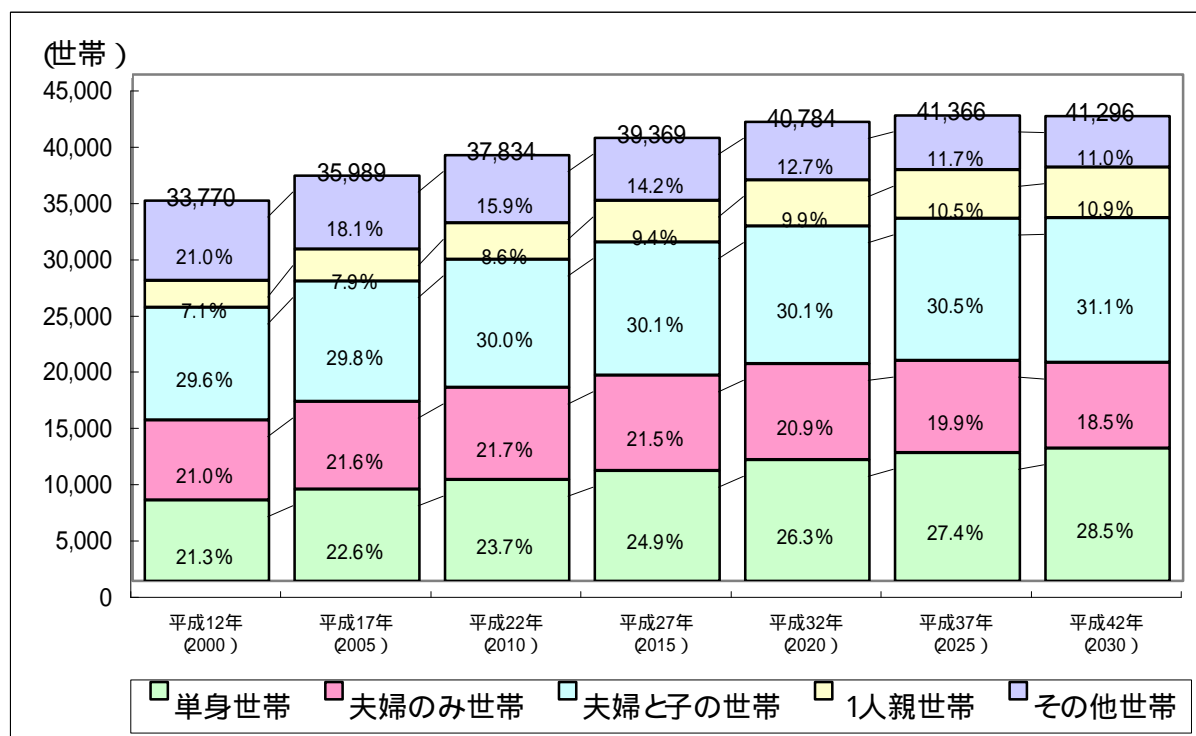
新市の世帯数は、下表のようになると推計されます。

この世帯数推計の基となった平成12年国勢調査での4市町村合計世帯数は33,770世帯で、新市が発足する平成17年には35,989世帯まで増加するものと見込まれます。その後も世帯の増加は続き、平成37年の41,366世帯をピークに減少に転じると予測されます。

また、世帯規模は縮小し、平均世帯人員は平成12年の2.96人から平成42年の2.60人まで緩やかに減少を続けるものと思われます。

新市世帯数推計

	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)
世帯総数	33,770	35,989	37,834	39,369	40,784	41,366	41,296
平均世帯人員数	2.96	2.84	2.75	2.69	2.62	2.60	2.60
単身世帯	7,185	8,138	8,981	9,805	10,732	11,350	11,766
夫婦のみ世帯	7,086	7,782	8,228	8,461	8,539	8,231	7,647
夫婦と子の世帯	10,006	10,710	11,345	11,848	12,267	12,609	12,846
1人親世帯	2,393	2,839	3,271	3,685	4,051	4,328	4,497
その他世帯	7,100	6,520	6,008	5,571	5,194	4,849	4,541



新市建設の基本方針

1 新市建設の基本理念

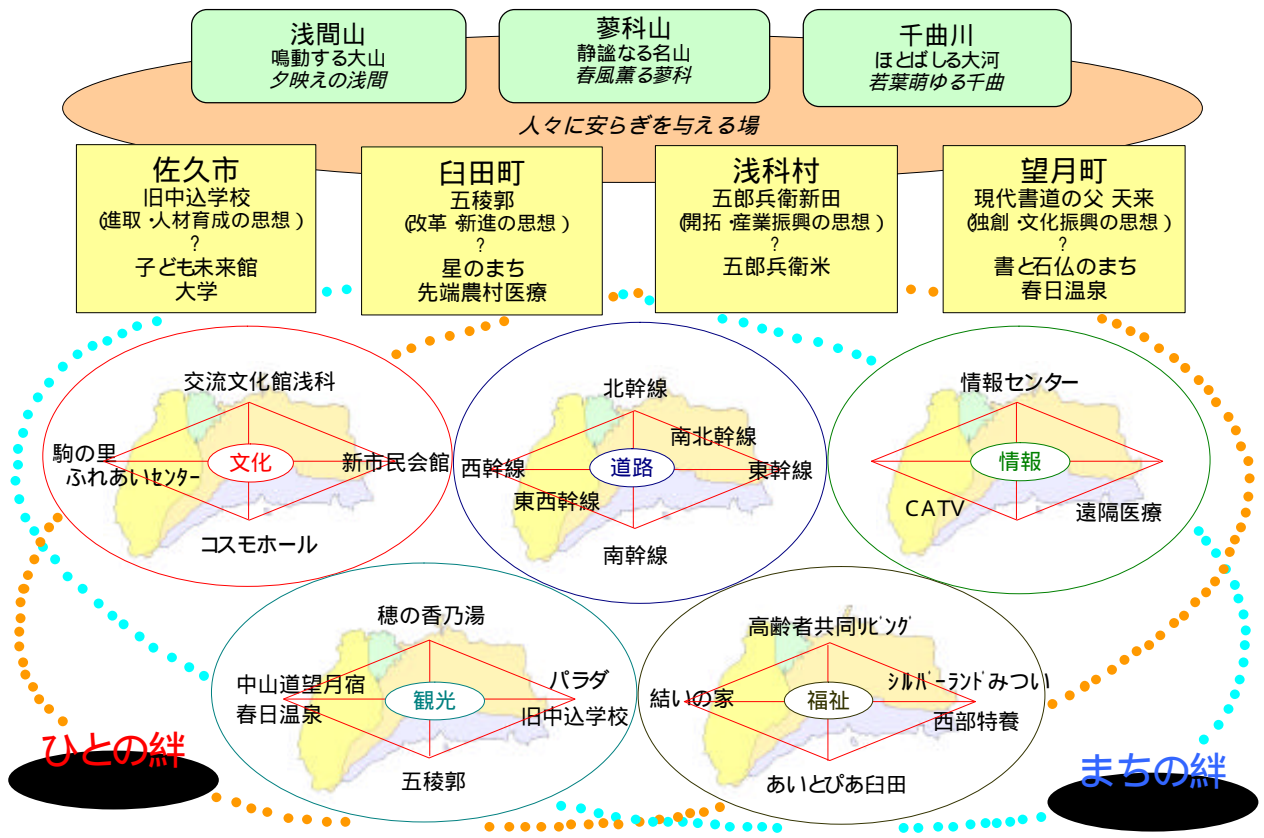
私たちは、鳴動する大山 浅間山、静謐なる名山 蓼科山、ほとばしる大河千曲川の精気を受け、また、佐久平の高燥冷涼な気候、肥沃な大地により、多様な自然と豊かな実り、安らぎ、癒しを万年に亘り享受し、嘗々として歴史を築いてきました。

そして、この地に脈打つ、旧中込学校にみる進取の精神や気風、五稜郭にみる新時代をひらく叡智、農村医療にみる命を守る使命感やたゆまぬ努力、五郎兵衛新田にみる開拓の精神、現代書道の父 天来にみる独創と先駆けの精神を誇りとし、この志を受け継ぎ、新たな文化の礎として発展させ、未来を担う子どもたちに伝えていかなければなりません。

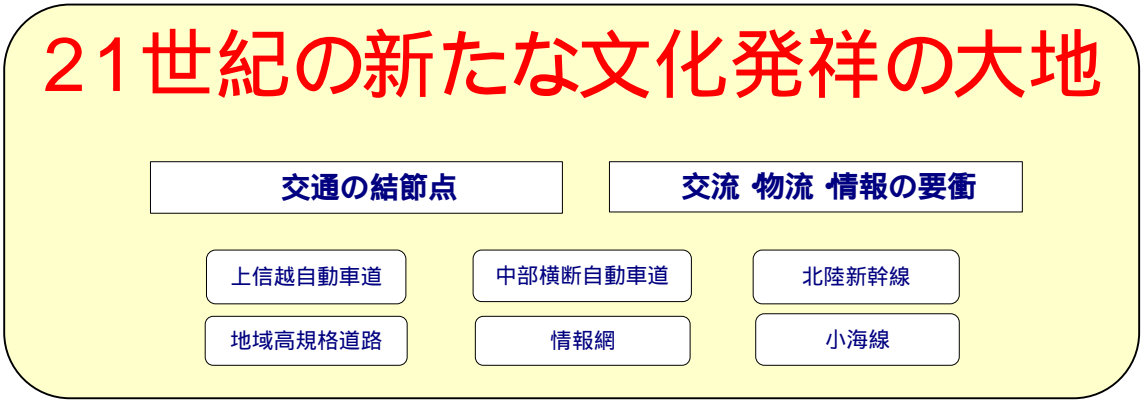
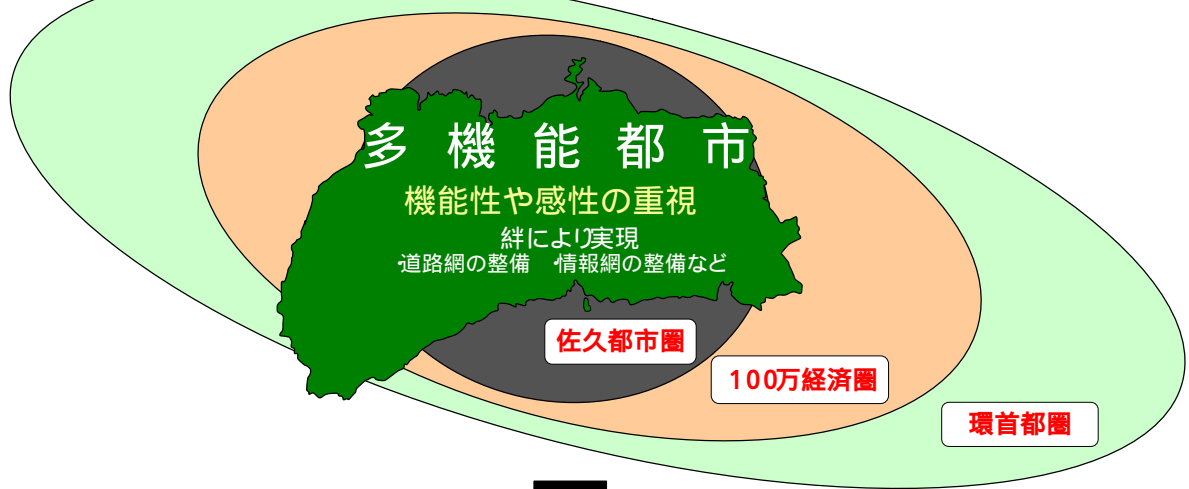
さらに、これらの地域に培われてきた個性が、他の個性と共生し、また融合することにより、新しい個性が生み出され、環境に配慮した、安心して豊かに暮らせるまちづくりを進めるため、その地域間に幹線道路・交通機関・情報のネットワークを構築します。

この地域間ネットワークが新市から佐久都市圏、さらには全国や世界ネットワークへと繋がることにより、新市は、たくましさや優しさを併せ持つ「多機能都市」として、真の地方の時代に立ち向かう魅力ある力強いまちづくりへ歩み始めます。

そして、新市は絆を基本として、21世紀を担う人材育成や100万経済圏づくりを行い、人や物流さらに情報の要衝として「21世紀の新たな文化発祥の大地」を目指します。



環首都圏の雄都（大きなゾーニング）



2 新市の将来像

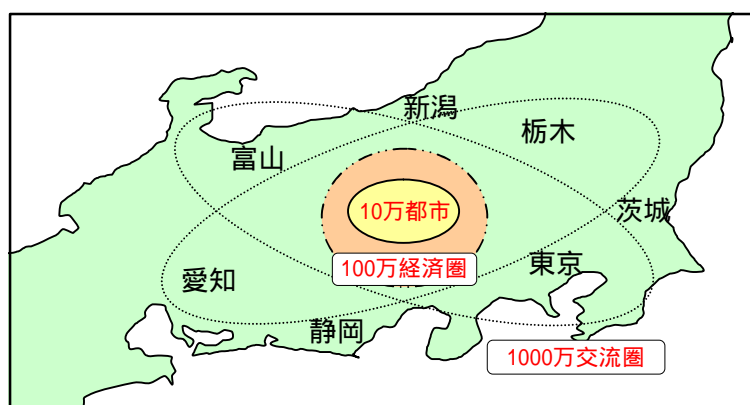
佐久の地に悠久の歴史を共有してきた私たちは、新市建設にあたり激変期の社会に凜として臨み、住民一人ひとりが先人の培ってきた叡智とほとぼしる情熱を受け継ぎ、たくましさや優しさを併せ持ち、様々な人々・地域・産業を通じたまちづくりを目指すために、新市の将来像を次のように定めます。

「叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市」

また、「一人ひとりのための温かみと豊かさのある生活空間」を、副題とします。

(1) 10万都市、100万経済圏、1000万交流圏の拠点

新市は単なる地域の結合でなく、一つの拠点性を持つ10万都市とし、新市が持つ地理・交通の優位性を活かす100万経済圏の産業拠点を目指します。また、1000万交流圏の観光・文化・スポーツ交流拠点づくりを推進し、未来に繋げる躍動感溢れるまちづくりを進めます。



(2) 水と太陽と緑がおりなす詩情あふれるまち

浅間山を始めとする山々と、千曲川や田園に代表される「佐久の原風景」を保全・継承するため、計画的な景観形成や緑化推進等によって地域の開発との調和を図ります。また、自然との共生を図り、限りある資源を有効に活用する資源循環型社会を形成することにより、環境にやさしいまちづくりを進めます。

(3) 温かみと豊かさのある生活空間

子どもや若者から高齢者まで、一人ひとりが家庭や社会において自身の役割を見出すことによって、生きがい・やりがい・助け合いのある、健やかに笑顔あふれるまちづくりを進めます。

(4) 伝統と創造の文化のまち

佐久の風土と培われてきた伝統・文化を継承するとともに、地域コミュニティから国際交流まで様々な連携・交流を図り、新たな文化の創造を目指します。

また、高等教育機関や学習施設の整備、ネットワーク化など教育の充実を図り、次代を担い、郷土を担う人材の育成を進めます。